

### 3 文化をはぐくむ人づくり

#### 目指す姿

文化活動の主役である県民の自主性、創造性が尊重され、その地位の向上が図られるとともに、能力を十分に発揮している社会

#### 現状と課題

- 小中学生を対象としたスクールコンサートの開催や、高校生を対象とした演劇教室の開催など、子どもたちが文化に触れる機会を継続して創出している。
- 少子高齢化により文化の担い手が減少、文化団体の会員が減少。
- 平成 29 年度に実施した県政アンケートでは、山形県の文化で誇りに思い、県外にも紹介したいものについて、「特にない」と答えた県民が約 3 割。
- 障がい者が文化活動や芸術作品を広く発表したり、県民がそれらの活動や作品に接することができる機会が少ない。
- ◇県民が文化を知り、体験し、関心や理解をより深める機会の創出が必要。
- ◇地域や学校との連携による子どもたちが文化に親しむ機会のより一層の充実が必要。
- ◇子どもから高齢者までが一緒になって文化活動に参加できる環境づくりが必要。
- ◇高齢者、障がい者、子育て中の保護者、外国人なども文化活動に参加できるよう、施設のバリアフリー化、多言語化など環境整備が必要。
- ◇文化に関する企画やマネジメント能力等を有する専門的な人材の育成が必要。
- ◇若者の活動を支援し、顕彰する仕組みの充実が必要。

#### 施策の方向性

##### (1) 県民の文化発信力の向上

- ・日本遺産に関する講座の開催など県民が郷土の歴史や文化を学び、関心や理解を深めるための取組の推進
- ・県外出身者との交流など、県民が山形の魅力に気付く機会の創出促進
- ・県民が様々な手段や場所で山形の文化の魅力を発信する活動の促進

##### (2) 子どもの創造性等の育成

- ・地域の伝統芸能や祭りなどの年中行事に参加、体験する機会の創出促進
- ・スクールコンサートや美術館・博物館における体験型企画の開催など文化に触れる機会の創出促進
- ・地域において文化活動に参加する機会や文化活動を発表する機会の充実
- ・子ども・若者・高齢者が文化活動を通して交流する機会の創出促進
- ・家族や地域ぐるみで子どもたちが文化施設を見学する取組の促進
- ・県立博物館における学校教育との連携や学校教育への支援の推進
- ・山形県高等学校総合文化祭の開催など高校生による文化活動の推進

##### (3) 高齢者及び障がい者の文化活動の促進

- ・山形県健康福祉祭の開催など文化活動を通じた高齢者の社会参加の促進
- ・地域で高齢者と子ども・若者が一緒に行う文化活動の促進
- ・やまがた障がい者芸術活動推進センターを拠点とした障がい者の文化活動への支援の推進
- ・県内各地での展示会や他県との合同作品展の開催等による障がい者の文化活動発表機会の創出促進
- ・ワークショップなど体験型講座の開催による障がいのある人もない人も共に文化を楽しむ機会の創出

##### (4) 文化の担い手の育成及び確保

- ・若手音楽家等への指導助言、公演機会の提供等による担い手の育成推進
- ・伝統芸能・伝承文化の担い手を確保・育成する取組の促進
- ・学校や公民館、コミュニティセンター等における地域の伝統芸能等の継承活動の促進
- ・山形県総合文化芸術館や置賜文化ホールを活用した文化事業の企画等を行う人材の育成
- ・文化団体、大学、市町村等が連携した文化事業の実施を通じた人材の育成
- ・文化施設やイベント等で運営や開催を支援する文化ボランティアの育成促進

##### (5) 顕彰

- ・芸術、学術等の分野で本県文化の向上に顕著な功績を挙げた県民の表彰
- ・若者の文化活動の顕彰の推進

### 4 文化を活用した社会づくり

#### 目指す姿

県民が郷土の文化に誇りと愛着を持ち、国内外に文化を積極的に発信し、文化を通じた多様な交流が行われている社会

#### 現状と課題

- ラグビーワールドカップ 2019 日本大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等は国内外から高い評価を受けている本県文化の魅力を発信する好機。
- 新庄まつり、遊佐の小正月行事のユネスコ無形文化遺産登録、4 件の日本遺産認定、国宝土偶「縄文の女神」の海外展示など、本県文化が国内外から高く評価されている。
- 大学と地域の連携による芸術祭の開催、建物の再生、文化資源を活用したまちづくり活動などが県内各地で行われている。
- 文化には、地域への愛着や誇り、地域住民の絆を育む大切な役割があるが、特に伝統行事などは、人口減少等により活動の継続が困難な状況になっている。
- ◇文化の多様性について県民の理解を深め、県民が一体となって地域活性化を図っていく気運の醸成が必要。
- ◇大規模イベントの開催や海外との交流機会を活用して、本県の文化を積極的に発信し、地域・経済の活性化、観光振興を図っていくことが必要。

#### 施策の方向性

##### (1) 文化の活用による地域の活性化

- ・担い手の年齢や性別、国籍、障がいの有無を越えた文化の多様性について県民が理解を深める取組の推進
- ・伝統芸能や伝承文化、食文化を通じた都市部と周辺地域の交流の促進
- ・映画、漫画などメディア芸術を活かした地域活性化の促進
- ・文化施設、地域、大学等が連携した文化イベントの開催等による賑わいづくりの推進
- ・文化財等を活用した地域イベントの開催への支援
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了後のホストタウンなどの文化交流事業の促進
- ・山形県総合文化芸術館における山形の文化・産業等の魅力発信機能を最大限に活用した賑わいや県内全域における交流人口の拡大、周辺施設等との連携による賑わいづくりの推進

##### (2) 文化の活用による経済の活性化

- ・県内の文化施設で開催される全国・東北規模の大会や、音楽団体の県外公演等の機会を活用した本県の文化情報発信の促進
- ・伝統工芸品の企画展やプロモーションの実施による情報発信の推進
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や関連イベント、海外プロモーション・現地商談会等における県産品・県産農産物の情報発信
- ・大学生等とのコラボレーションによる文化財をモチーフにした土産品など企業の商品開発の促進

##### (3) 文化の活用による観光振興

- ・山形の特色ある文化資源（美術館・博物館、華道・茶道などの伝統文化、精神文化、食文化、日本遺産など）等の観光振興への活用促進
- ・映画やドラマのロケーション誘致などメディア芸術の活用による観光振興の促進
- ・文化施設共通企画展の開催・入場者割引、周辺施設及び店舗と連携したイベント・商品開発等による観光誘客の推進

##### (4) 文化に関する情報発信及び交流の推進

- ・ホームページや SNS、大規模イベントなど多様な手法による国内外への情報発信の推進
- ・県外の文化団体との交流や本県文化の魅力を国内外で発信する取組、国際的な文化・スポーツイベントの県内開催の促進
- ・国内外の団体が県内で行う文化合宿の促進等による県民の文化交流の推進
- ・美術品や文化財の多言語での紹介等による外国人の理解促進と観光誘客の推進

### 5 推進体制

#### ○関係機関との連携

- ・県民、文化団体、文化関連施設、企業、教育機関、県・市町村などの行政機関の連携・協働による文化の推進

#### ○進行管理

- ・毎年度評価・検証を行い、次年度以降の施策に反映